

木格子で跳ねるカレーうどんを表現

若鮓家

イオンモールナゴヤドーム前店

Japanese Noodle Restaurant WAKASHACHIYA Aeon Mall Nagoya Dome Mae
Designer: Masaki Machida / SPACE

愛知県名古屋市東区矢田南4丁目102-3 イオンモールナゴヤドーム前 1階

設計／スペース 河田幹樹 計画監理

協力／照明計画 大光電機 生田 勉

施工／スペース 稲井真也

撮影／ジュビリー

共用廊から販売方向を見る。ファサードの木格子は、メインメニューのカレーうどんが跳ねる様子を表現。また、開口部のガラスには、さまざまなスパイスをモチーフにしたグラフィックシートを貼っている



左／テーブル及びシャンデリアも、うどんを表現している。シャンデリアは、ファサードの木格子と重なり合うことで、奥行きを感じさせることを意図した。右／ファサード。ショッピングセンター「イオンモールナゴヤドーム前」の1階に位置し、ナゴヤドームを訪れた観光客も多く来店する。



カレーうどんの魅力を
造形で表現する

「変わらないおいしさと、変わり続けるおいしさ」を追求する、愛知・名古屋で愛され続けているカレーうどん専門店「若鮓家」。創業約30年という歴史の中で構築されてきた店づくりを尊重しながらも、店主の「変わり続ける、新しい空間にしたい」という要望に応え、概念的要素に変化を持たせることを企画した。

東海地方では「ちゅるちゅるうまうま」というフレーズで聞きなじみのある若鮓家のうどんの特徴を、「ハネ」の変化を持たせた木格子により表現。この「カレーうどんの木格子」を軸に、空間全体でカレーうどんを想起させることを試みた。計画地は、商業施設内のレストランとしては小さな21坪という床面積に対して、ファサードが長く奥行きの深い特殊な空間。そこで、ファサードを利用した「面」と客席中央に配置した「集合体」で「カレーうどんの木格子」を展開し、空間にインパクトと奥行きを演出した。

更に、「スパイス感」を付加するため、ベン

チシートのデザインは、ペッパー・ターメリック、カルダモンなどのスパイスの重なり合いをイメージしている。また、Rを描きながら天井へと連続する壁面では、幾多の「スパイス」から「カレー」へとつながるグラデーションを、グラフィカルかつダイナミックに表現。その上に2対の「鏡」を配することで、視覚的かつ造形的にカレーうどんの魅力を伝え、「名古屋」の若鮓家をキャッチャーに発信する。

(河田幹樹／スペース)

■1100 金シャチカレーうどん1380 名物カレーうどんセット1050 味噌煮込みうどん980 金丼ミンチのカツ味噌丼(追い飯付き)1000 ビール580

土を仕上げ材質

サイン: LEDチャンキル文字+SSUS.HLパイプ

床: ホモジニアスピニルタイル貼り

壁:LGS組みPB02.5下地鋼板系平形ストレート貼り(SOLIDO typeM_FLATセメント/ケイミュー) ゴールド特殊

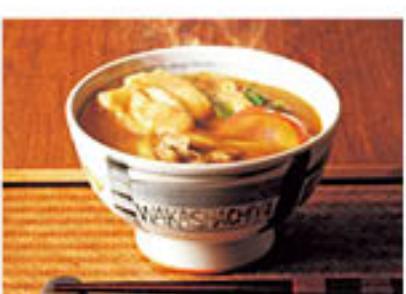
鏡の上スパイス柄グラデーション墨絵 ファサード/アルミサッシ+木目シート貼り 不燃杉板材切り出しの上CL 開口部・グラフィックシート貼り

天井:LGS組みPB12.5下地AEP

家具: テーブル/集成材面取り加工の上クリアレジンコートィング仕上げ ベンチ/特注ピニルレザー張り(サンゲツ)

什器: サンプルケース/化粧板貼り

照明器具: シャンデリア/ST形状下地木目シート貼り



看板メニューの「名物カレーうどん」(写真提供/若鮓家)